

カワガラス 同前、羽の色が黒いのでこうした名前をつけられたが、普通のカラスとはおよそ縁遠い種類である。山地の谷川のほとりに生息している。水にもぐったり水上すれすれに飛んでゆく。

シラサギ サギ類の一般総称したものでその種類は多く、町内に見受けるのは、コサギ・ダイサギ・アオサギ・アマサギ・ゴイサギなど。最近こうしたサギが水辺や水田をあさる姿が多くなった。ゴイサギは夜行性で餌を求めるときは水辺だが普段は山林の樹上に巣をかまえ、汚物や臭気で一山を荒らす。アオサギは少し大型で花熊附近でよく見かける。

カモ 北方から冬鳥として渡来する。種類も多くコガモ・マガモ・ヨシガモ・ヒトリガモ・カルガモなどである。なお先年本庄池に二六六羽のヨシガモを数えたことがあると、信用金庫支店長の下田氏が教えてくださった。オンドリもカモの一種で本町内で見たとはい。

カモメ 冬鳥として渡来する。元来は海鳥であるが最近は今川下流から段々足を延ばして、柳瀬・崎山までもその姿を見かけるようになった。ユリカモメの群れの中にも、ウミネコ鳥も交じっているかもしれない。

ガン 以前は群れをなして空を飛んでいたが最近あまり見かけない。  
コハクチョウ 本庄池に二〇年前ごろ泳いでいたがその後死亡したと聞く。

### 三 昆虫類

まずダム環境調査結果を紹介しよう。それによると、調査地域の植物相が単調なために、山地性昆虫類の種類数・個体数ともに少なく、出現

種の大部分は福岡県の平地から低山地にかけて広く分布している普通種として次のものを挙げてみる。

ウスバキチョウ・オンブバッタ・クサギカメムシ・ツクツクボウシ・ツマダ  
ロヨコバイ・ヒメコガネ・クロウリハムシ・イチモンジハムシ・キチョウ・  
ブドウスズメ・トビイロケアリなど四八六種

貴重種として、オオムラサキ・ゲンジボタル・クロセリがあるが、これらも周辺部に生息に適した環境があるので個体数のわずかな減少にとどまるものと考えられる、と報告されている。

右のように四八六種の中に含まれる、よく見かける昆虫を列記する。  
カブトムシ・カミキリムシ・クワガタ・コガネムシ・オサムシ・セミ・ミノ  
ムシ・マツムシ・スズムシ・アリ・ハネアリ・カマキリ・キリギリス・コロ  
ギ・クツワムシ・テントウムシ・トンボ・チョウ・ハチ・アブ・ブヨ・ウ  
ンカ・カゲロウ・ケラ・カメムシ・ヘリムシ

人家の内外に見られるものは、ノミ・シラミ（これらは今ほとんどいなくなった）・カ・ハエ・ガ・コクゾウムシ・コメツキムシなど。

水辺で見かけるものは、ゲンゴロウムシ・ミズスマシ・アメンボウ・ハムシなど。

### 四 爬虫類・両生類

爬虫類・両生類についても、ダム調査で左のように報告している。

棲息しているのは、アオダイショウ・シマヘビ・カナヘビ・トカゲ・イモリ・ヤモリ・ヒキガエル・アマガエル・カジカガエルなど一六種とある。特にカジカガエルは伊良原地区の象徴動物であり、犀川町としてこれは天然記念物的な存在である。カジカは流水性のためダムができ

て湛水すれば、生息できなくなるが上下流や支流に残る好適な生息環境で繁殖するものと考えられる、と少し楽観的な表現で述べている。

サンショウウオ これは生きた化石といわれまれな動物である。昭和の初めごろまでは祓川の上流地帆柱附近にもいたことが確認されていた。現在でも精査すればヒコサンサンショウウオの小さいのが生息しているはずである。

ツチガエル・トノサマガエル・ウシガエル(食用蛙)・ヒキガエルなどかなり見受ける。

ウシガエル 新柳瀬橋から崎山間の澱みに多く見られる。

ヒキガエル 俗にワクドと言う。今は多くはないが筆者の宅地内に昨年中に掌にのるぐらい、まだ子供、だろが居るのを見た。

ヒバカリヘビ 性質が荒くシマヘビに似ている。噛まれるとその日ばかりの命というのは迷信で、実際は無毒である。

マムシ イノシシがこれを食べるので少なくなったといわれるが、まだ数多く湿地に潜んでいる。

## 五 魚 介 類

アユ 今川・祓川いずれも多く棲んでいたが、魚毒に弱く農薬の関係もあり、一時途絶えた感があったが現在では少し見かける。しかし昔のような状況になることはないだろう。

コイ これも大体同じ状況だが、農薬などにはアユより抵抗力があるので復活も早く、今はかなり多く見かける。

フナ キンブナ・ギンブナ・ヘラブナ(ゲンゴロウブナ)等の種類があ

る。本庄池のヘラブナ釣りは多く、川でも五月の出水時期には大きいものが田の中へ迷いこむのをよく見かける。田の水口に群れていた小ブナの姿を見ない。

ライギョ 外国から持ち込まれたものが各地の池や川に一時繁殖し、他の魚を捕食するので養魚池の大敵だった。昭和三十年ごろまでいたがその後少なくなり現在は全くいない。

ダム環境調査では左記のものが確認報告されている。

カワムツ(ヘエの類)・アユ・オイカワ(キンバエ)・カマツカ(ダンギボ)・ムギツク(クチボソ)・ヨシノボリ(ゴリ)・イトモロコ・ドジョウ、貴重種としてオヤニラミの生息が確認されたとある。

以上のほか今川・祓川にはナマズ・ウナギ・ドンコ・ギウギユ等の従来生息していた魚類も少ないだけで存在していると魚取業者から直接、話を承った。カチンコ・メダカ類もいるだろう。

カワカニ モクズカニとともに川土手の穴・石積みの間などに必ずと言っていいほどいたが今は少なくなった。

サワガニ これも近ごろ見かけるようになった。

エビ テナガエビ、当地方ではガマンという。ヌカエビ(エビンチコ)なども全く見かけないが魚取業者の話のように段々、復活しているだろう。

シジミ 昔のようにたくさんいないが少しずつ殖えている。幼貝は黄緑色だが老成すると黒色となる。

ドブガイ 別名ヌマガイともいう。池沼・溝にいる黒色で殻は大きい。薄。本町にはあまり多くない。

カワニナ 巻き貝で殻頂は多くの場合欠損している。ホタルの重要な